ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

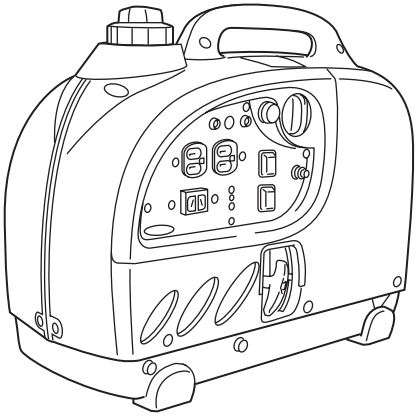
makita

LEMA

取扱説明書

エンジン発電機

モデル EG0900IS



このたびはエンジン発電機をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。
ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

おねがい

このたびはエンジン発電機をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
本書には、本機の安全性に関する情報と本機の正しい取り扱い方法および簡単な点検・調整について説明してあります。
万一、取り扱いを誤まると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また本機の性能を十分に発揮させるために、エンジン発電機の取り扱いを十分ご存じの方も、本機独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なお、ご使用時には本書を携帯し、安全に本機をご使用くださいますようお願い申し上げます。

- 本書では、正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠　安全に係る注意情報を意味しています。

⚠警　告　取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

⚠注　意　取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要　　点　正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 保証書はよくお読みいただき、裏面のお買いあげ日、販売店の記入をご確認ください。
- 本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお、本機の転売や譲渡などをされる場合は必ず添付してください。

国内排出ガス自主規制について

このラベルは、（社）日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

（社）日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。
本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧いただけます。
http://www.lema.or.jp/

目次

おねがい……表紙裏（表 2）
本体識別番号……P1
- 本体識別番号……P1

安全にお使いいただくために
お守りください……P2
- ⚠ 警告……P2
- ⚠ 注意……P3
- 環境への配慮……P3

重要ラベル……P4
- ⚠ 警告ラベル……P4
- ⚠ 注意ラベル……P5
- その他ラベル……P5

各部の名称……P6
各部の取り扱い……P8
- オイル警告装置……P8
- エンジンスイッチ……P8
- エコノミースイッチ……P9
- 周波数切替スイッチ……P9
- オイル警告ランプ（赤色）……P10
- 過負荷警告ランプ（赤色）……P10
- 出力表示ランプ（緑色）……P11
- 燃料コック……P11
- チョークノブ……P11
- 直流プロテクタ……P12
- アース端子……P12
- リコイルスタータハンドル……P13
- 携帯工具……P13

給油……P14
- 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の給油……P14
- エンジンオイルの給油……P16

正しい運転操作……P18
- エンジンの始動……P18
- エンジンの停止……P20
- 交流電源の取りだし方……P21
- 直流電源の取りだし方（12V バッテリ充電専用）……P22
- 交流電源の使用可能範囲……P24
- 直流電源（12V バッテリ充電専用）の使用可能範囲……P25

始業点検……P26
- 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の点検……P26
- エンジンオイルの点検……P27
- その他の点検……P27

点検……P28
- 始業点検……P28
- 定期点検（有料）……P28

定期運転・定期交換……P30
- 定期運転……P30
- 定期交換……P30

点検・調整……P31
- エンジンオイルの交換……P31
- スパークプラグの点検と清掃……P34
- エアクリーナエレメントの清掃……P37
- 燃料タンクストレーナの清掃……P39
- マフラワイヤネットの清掃……P40

故障診断……P41
- エンジンが始動しない……P41
- 電気が出ない……P41

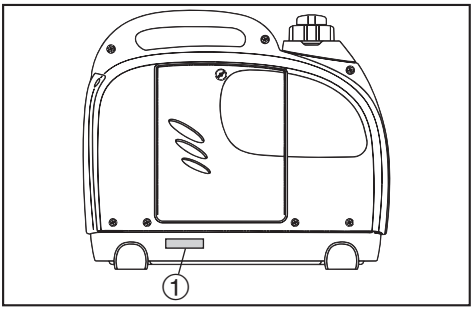
運搬……P42
保管・格納……P44
- 保管……P44
- 格納……P47

仕様諸元……P49

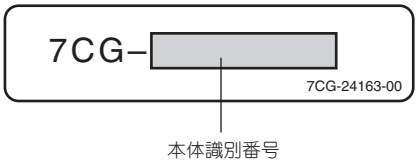
本体識別番号

● **本体識別番号**

製品名、本体識別番号（識別番号ラベル ①）などは問い合わせや部品を注文するときのために記入しておいてください。
万一の盗難時のために製品名、識別番号は他の資料にも記録しておいてください。



① 識別番号ラベル



製品名記入欄

識別番号記入欄

購入年月日記入欄

年　　月　　日

購入先記入欄

電話

安全にお使いいただくためにお守りください

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および本機に貼付されているラベルすべてを熟読し、正しくご使用ください。本機の知識、安全の情報そして注意事項のすべてに習熟してからご使用ください。

⚠警　告（行為を禁止する警告文）

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
  排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので、室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所などの排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- 本機の上にものを乗せて使用しないでください。
- 火災のおそれあり、この発電機は車載用ではありません。車両に積載したまま使用しないでください。
- やけどや火災のおそれあり、使用中や使用直後はマフラ部が熱いので、マフラやマフラ周辺のプロテクタに手足を直接触れたり、カバーを掛けたりしないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 火災のおそれあり、本機の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や本機の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、濡れた手で本機を操作したり、雨や雪など水のかかる場所では使用しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

⚠警　告（行為を指示する警告文）

- 本機を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、本機を建物や設備から 1 メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止し、換気の良い場所で行ってください。

燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いは十分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。
- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

⚠注　意（行為を禁止する注意文）

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、本機の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグにさわらないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、エンジン部、マフラ部が十分に冷えるまで、発電機にカバーを掛けないでください。

⚠注　意（行為を指示する注意文）

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 本機を自動車などで運搬する場合には、燃料を抜いて倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行う始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異状を感じたら、直ちにエンジンを停止してお買上げの販売店、または当社営業所の点検を受けてください。

環境への配慮

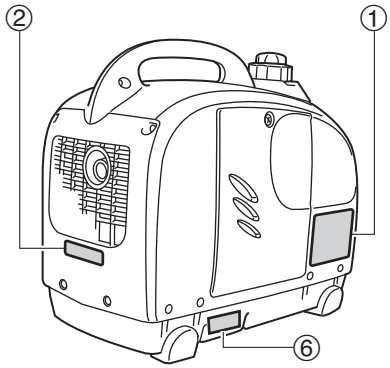
将来、廃棄される場合および廃油などの廃棄処理をされるときは、環境保護のため、お買上げの販売店、または当社営業所にご相談ください。

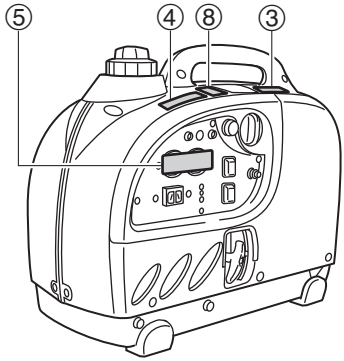
重要ラベル

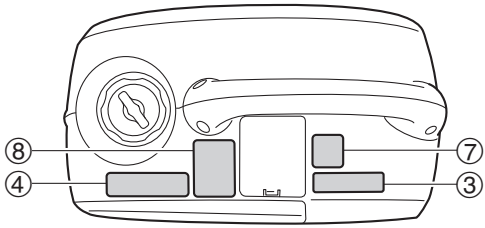
本機に貼付されているラベルすべてを熟読し正しくご使用ください。

要　点

ラベルは常に手入れを行い、破れたりはがれたりした場合はお買上げの販売店、または当社営業所にご相談して、直ちに新しいものと交換してください。







⚠警　告 ラベル

①

⚠ 警　告

火気厳禁

火災や爆発のおそれあり
- 給油中はエンジン停止のこと。
- ガソリン給油口に火気を近づけないこと。
- こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。
- 燃料は赤レベル(規定量)以上入れないこと。
- 可燃物のそばで使用しないこと。
- 建物・設備に排気を向けないこと。
- 運搬・保管時は燃料コックを"OFF"にし、また燃料給油キャップつまみを右方向に止まるまで回し、"OFF"にすること。

排気ガス中毒のおそれあり
- 屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。
- 人・建物・設備に排気を向けないこと。

感電や火災のおそれあり
- 電力会社からの電気配線に接続しないこと。

感電のおそれあり
- 雨や雪の中で使用しないこと。
- コンセントに濡れた手でさわらないこと。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。

makita　EG0900IS

PS E　JET　ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社

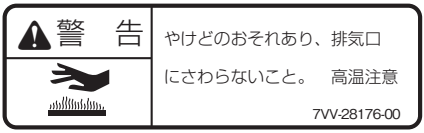
交流	定格電圧	100V
	定格電流	9.0A
	定格出力	900VA
	定格出力周波数	50/60Hz
	相	単相
	力率	1.0
直流	定格電圧	12V
	定格電流	8A
燃料		無鉛ガソリン

OIL

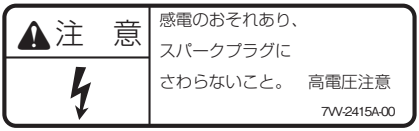
7CG-24162-L0

⚠注　意 ラベル

②

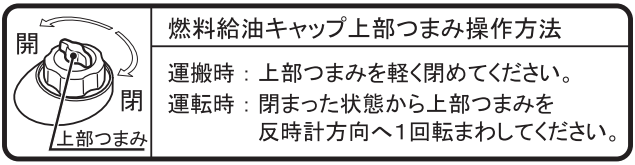


③



その他ラベル

④ 燃料コック操作



⑤ 周波数切替スイッチ

この発電機は*50Hz*／*60Hz*切替式です。
工場出荷時は*50Hz*にセットされています。
***60Hz*の地域の方は、取扱説明書を参照**
いただき、*60Hz*にセットしてください。

7VU-24152-00

⑥ 識別番号ラベル（P1 参照）

⑦「LEMA」ラベル
（「排出ガス」自主規制適合マーク）

JT0-2111F-00

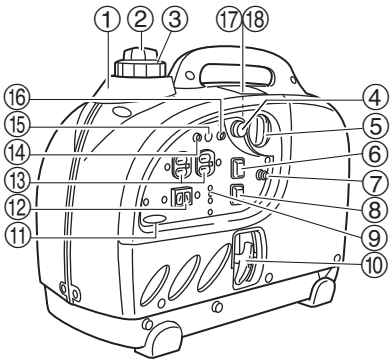
⑧ 始動要領

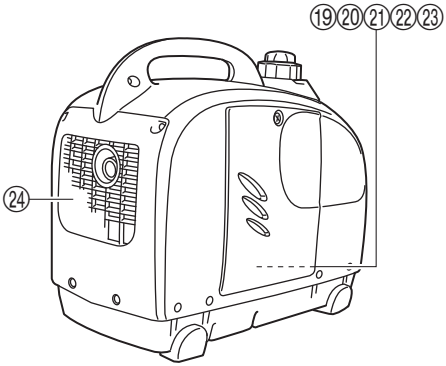
始動要領

- コンセントから全ての電気器具を取り外す。
- エコノミースイッチを"OFF"にする。
- 燃料キャップ上のグレーのつまみを左方向に1回転回す。
- 燃料コックを"ON"にする。
- エンジンスイッチを"ON"にする。
- チョークノブを引く。
- リコイルスターターハンドルを勢いよく引く。
- エンジンが始動し、回転が安定したら
  チョークノブを戻す。

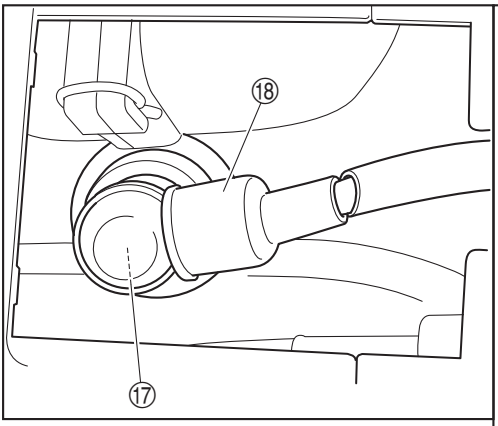
7CG-25134-00

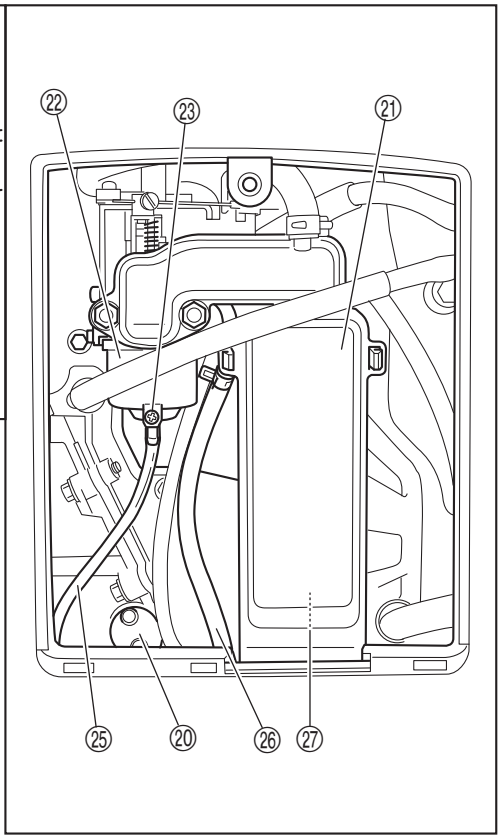
各部の名称





①燃料タンク
②燃料給油キャップつまみ
③燃料タンクキャップ
④チョークノブ
⑤燃料コック
⑥エンジンスイッチ
⑦アース端子
⑧エコノミースイッチ
⑨直流プロテクタ
⑩リコイルスタータハンドル
⑪周波数切替スイッチ
⑫直流コンセント
⑬交流コンセント
⑭過負荷警告ランプ
⑮出力表示ランプ
⑯オイル警告ランプ
⑰スパークプラグ
⑱スパークプラグキャップ
⑲オイル警告装置
⑳オイルプラグ（オイル注入口）
㉑エアクリーナ
㉒キャブレタ
㉓ドレンスクリュ
㉔マフラ
㉕ドレンパイプ
㉖エアベントホース
㉗エアクリーナエレメント


⑱
⑰


㉒
㉓
㉑
㉕
⑳
㉖
㉗

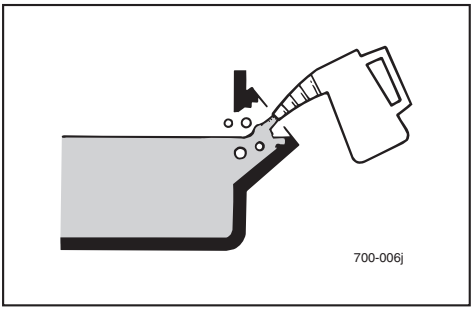
各部の取り扱い

● **オイル警告装置**

エンジンオイル量が少なくなって潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。

エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、リコイルスタータハンドルを引いてもエンジンは始動しません。

エンジンオイル量を確認し４ストロークエンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで給油します。



⚠注　意

エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要　　点

- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平にした状態で行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

● **エンジンスイッチ**

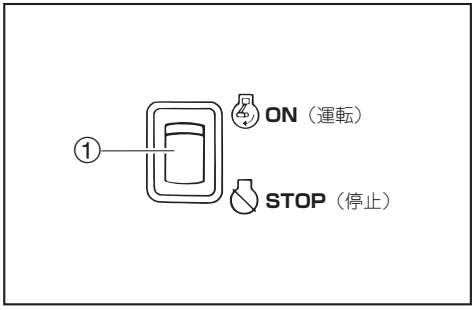
エンジンスイッチ ① は点火系統を制御しエンジンの運転、停止を行います。

ON（運転）

　エンジン運転時の位置です。

STOP（停止）

　エンジン停止および保管時の位置です。



⚠注　意

使用しないときは、エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてください。

● **エコノミースイッチ**

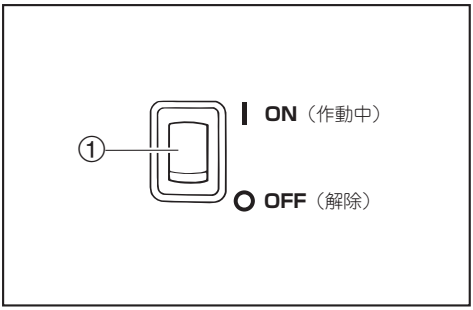
エコノミースイッチ ① はエコノミーコントロール装置の作動・解除を行います。

ON（作動中）

エコノミースイッチ ① を ON にするとエコノミーコントロール装置が作動します。電気機器を運転すると、自動的にエンジンは負荷の大きさに応じた回転となり、運転しないときは自動的に低速回転になります。

OFF（解除）

エコノミースイッチ ① を OFF にするとエコノミーコントロール装置が解除されます。電気機器の使用の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転します。

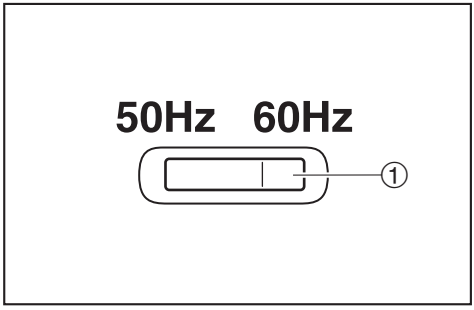


要　点

コンプレッサ、投光機などの電気負荷が大きい場合は、エコノミースイッチを OFF（解除）の状態で使用してください。

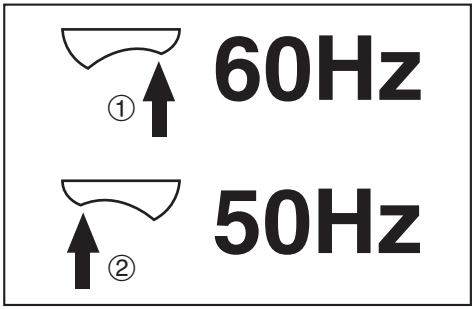
● **周波数切替スイッチ**

周波数切替スイッチ ① は利用する器具の周波数に合わせて周波数を 50Hz か 60Hz のいずれかに切替えるスイッチです。



60Hz 仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの 60Hz 側 ① を押してください。

また、50Hz 仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの 50Hz 側 ② を押してください。



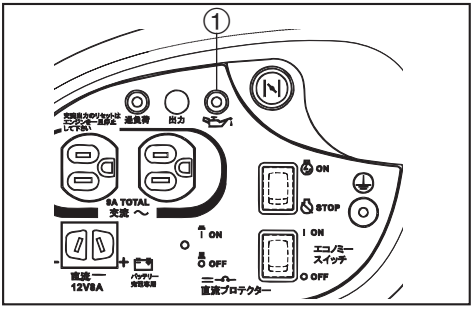
要　点

- 工場出荷時、周波数切替スイッチは 50Hz にセットされています。
- 周波数の切替はエンジン停止中に行ってください。
- 電気器具の周波数が不明の場合は、電気器具会社にご相談ください。

各部の取り扱い（つづき）

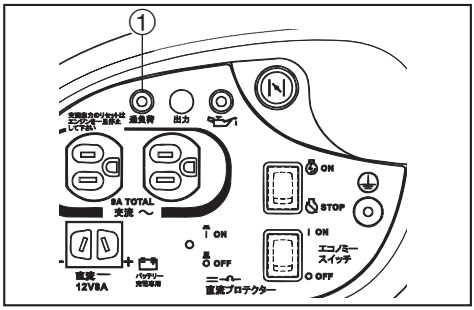
● オイル警告ランプ（赤色）

オイル警告ランプ（赤色）① は運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点灯し自動的にエンジンを停止させます。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとリコイルスタータハンドルを引いてもオイル警告ランプ（赤色）① が点灯し、エンジンは始動しません。



● 過負荷警告ランプ（赤色）

過負荷警告ランプ（赤色）① は接続された電気機器から定格出力を超える電気を要求されたときに点灯します。発電機は電気の供給を遮断しますがエンジンは停止しません。

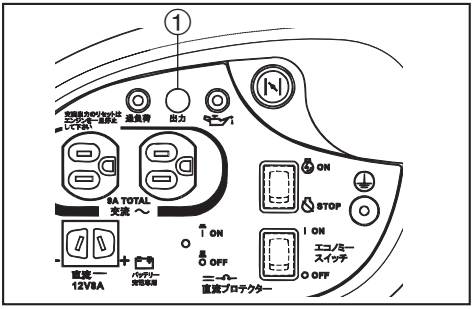


要　点

発電を再開する場合は一度エンジンを停止し、再度エンジンを始動してください。なお、過負荷警告ランプ（赤色）は自動的に消灯します。

● 出力表示ランプ（緑色）

出力表示ランプ（緑色）① はエンジン始動後、発電が始まると点灯します。

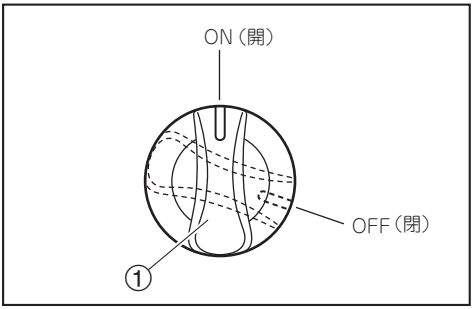


● 燃料コック

燃料コック ① は燃料の流れを制御します。

ON（開）　燃料は流れます。
　　始動および運転時の位置です。

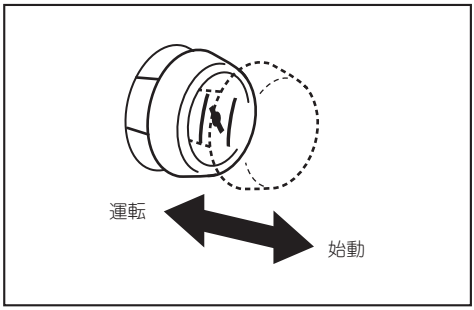
OFF（閉）　燃料は流れません。
　　停止および保管時の位置です。



● チョークノブ

始動　エンジンが冷えている状態で始動させるときのノブの位置です。

運転　エンジンを運転するときや、エンジンが暖まっている状態で始動させるときのノブの位置です。



各部の取り扱い（つづき）

● **直流プロテクタ**

ON（入）　直流が取り出せます。
（通常はこの位置になっています。）

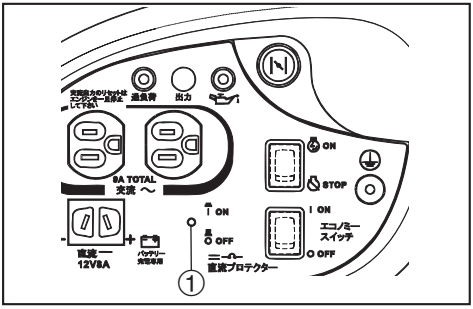
OFF（切）　直流が取り出せません。

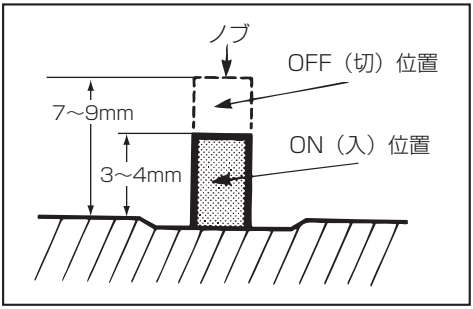
⚠注　意

- **直流プロテクタ ① が ON（入）のときはノブを押さないでください。**
- **直流プロテクタ ① が OFF（切）になる場合は、バッテリ容量・放電状態を発電機の指定バッテリ容量以内に減らしてください。それでも OFF（切）になる場合はお買上げの販売店、または当社営業所に相談してください。**

要　点

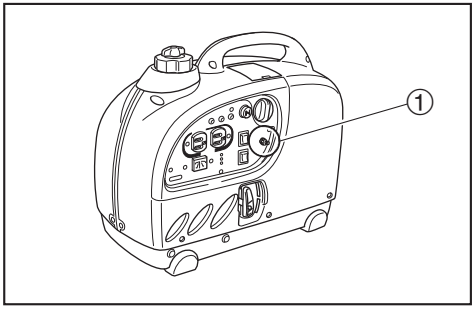
12V バッテリ充電中に定格以上の電流が流れると自動的に OFF（切）になります。再度使用する場合はノブを押し込んで ON（入）にしてください。

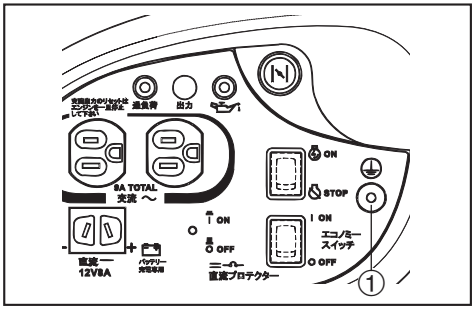




● **アース端子**

感電防止のアース線を取り付ける端子 ① です。



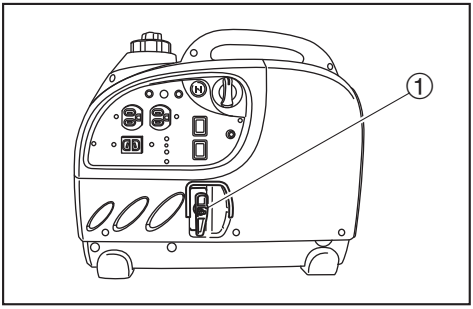


要　点

アース端子 ① から地面にアースしてください。

● **リコイルスタータハンドル**

リコイルスタータハンドル ① はエンジンを始動させるときに使用します。



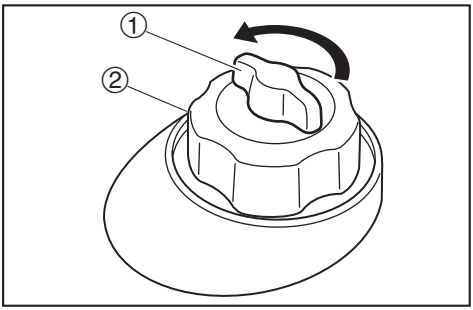
● **携帯工具**

発電機に携帯工具が同梱されています。点検・調整の際にご使用ください。

給油

● **燃料（自動車用レギュラーガソリン）の給油**

燃料給油キャップつまみ ① を左方向に 1 回転回します。燃料タンクキャップ ② をゆるめます。

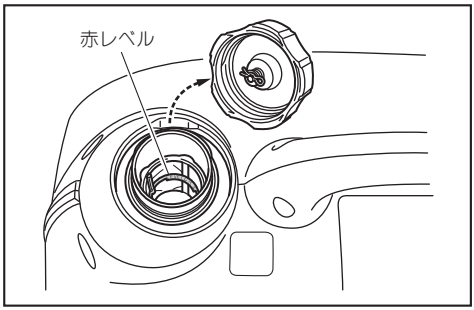


要　点

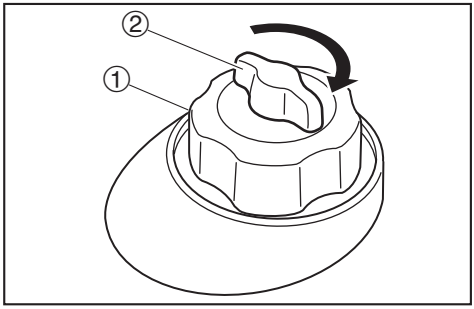
燃料給油キャップつまみは燃料タンク内と外気との通路を開閉する装置です。
発電機を運転する前にゆるめ（通路を開く）、運転を終了した後に締め付け（通路を閉じる）ます。

燃料タンクキャップを外し、燃料（自動車用レギュラーガソリン）を赤レベルまで給油します。

使用燃料：
　無鉛ガソリン
　（自動車用レギュラーガソリン）
燃料タンク容量：
　2.5L（赤レベルまで）



給油後は燃料タンクキャップ ① を確実に締め付け、燃料給油キャップつまみ ② を右方向に止まるまで回します。



⚠警　告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力があるので、次の事項を必ず守ってください。

- **給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。**
- **給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。**
- **燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。**

- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**

⚠注　意

- **燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。**
- **燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。**

要　　点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

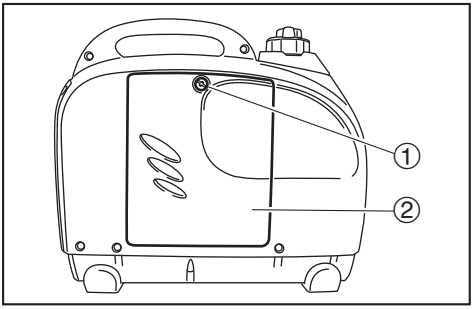
給油（つづき）

● エンジンオイルの給油

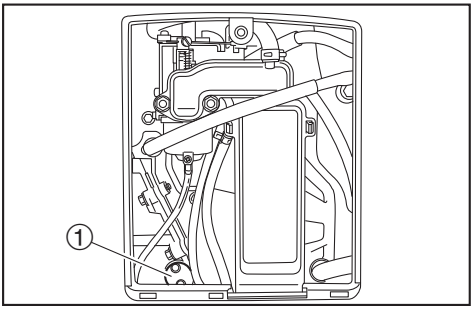
⚠注　意

- **工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので、購入後、最初に使用するときはエンジンオイルを規定量給油してください。**
- **エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。**

1. ボルト ① をゆるめて、カバー ② を取り外します。

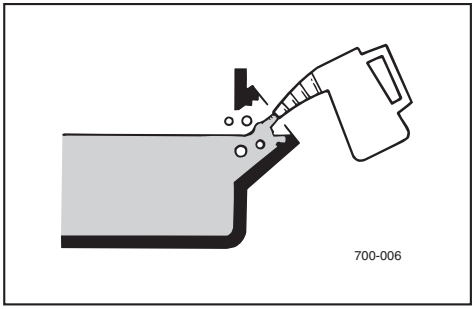


2. オイルプラグ ① を外します。



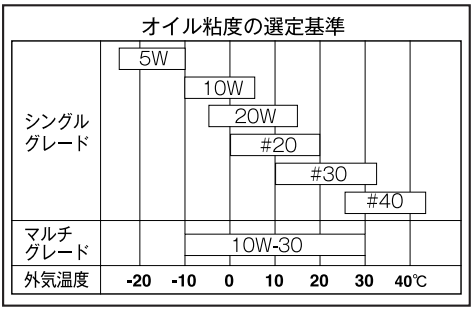
3. 4 ストロークエンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで給油します。

推奨オイル：
自動車用 4 ストロークエンジンオイル
品質：API 分類 SE 級以上のものを使用。
粘度：SAE 10W-30 または SAE 10W-40 を推奨
シングルグレードオイルを使用する場合は、外気温に合わせて適当な粘度のオイルを選んでください。
エンジンオイル規定量：
0.32L



要　点

- エンジンオイルを交換するときは、「● エンジンオイルの交換」（P31）を参照してください。
- エンジンオイルの質と量を低下させると焼付損傷をまねきます。
- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平にした状態で行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。



4. オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。
5. カバーを取り付けます。

正しい運転操作

● エンジンの始動

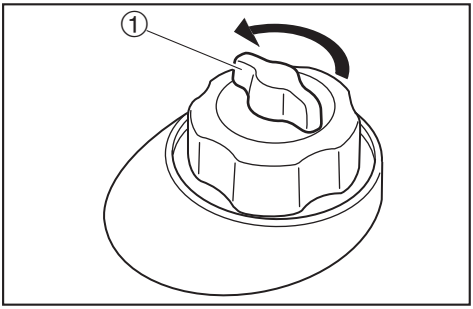
⚠警　告

換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。

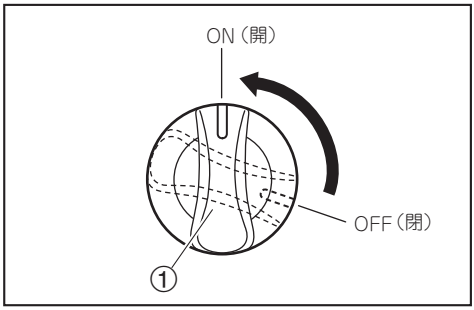
⚠注　意

- **新規購入後の 1 回目は、燃料タンクに燃料を給油しても、自動的にすべての始動系統には燃料が供給されません。そのため、エンジンが始動するまでに約 10 回リコイルスタータハンドルを引く必要がある場合があります。**
- **エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。**
- **エンジンを始動する前に周波数切替スイッチの周波数と接続する電気器具の周波数が同じであるか確認してください。**

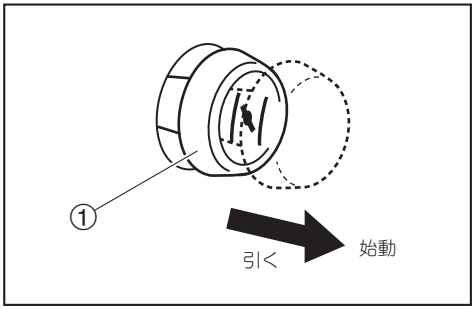
1. 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検します。
2. 燃料給油キャップつまみ ① を左方向に 1 回転回します。



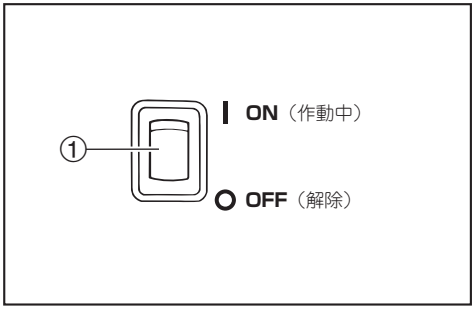
3. 燃料コック ① を ON（開）にします。



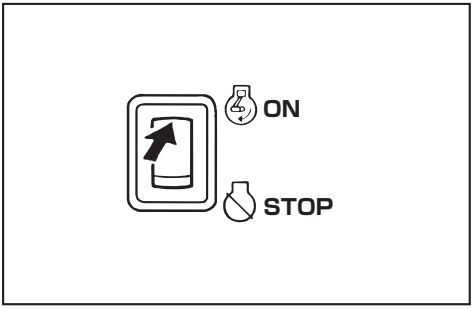
4. チョークノブ ① を始動にします。
   なお、エンジンが暖まっているときは、チョークノブを始動にする必要はありません。



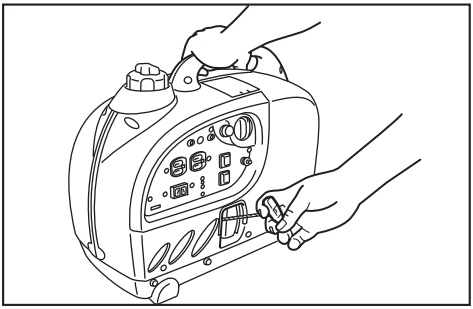
5. エコノミースイッチ ① を OFF（解除）にします。



6. エンジンスイッチを ON（運転）にします。



7. リコイルスタータハンドルを軽く引き出します。リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引き、エンジンを始動させます。



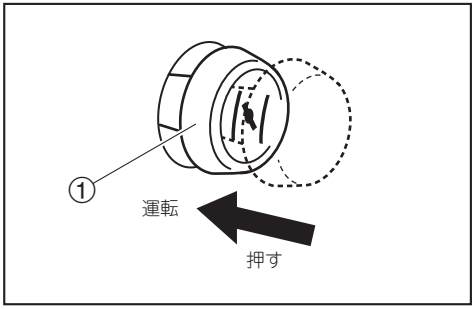
⚠注　意

- **リコイルスタータハンドルを引くときは発電機が倒れないように手でハンドルを押さえてください。**
- **リコイルスタータハンドルを戻すときはゆっくりと戻してください。**

要　　点

リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しないときは、チョークノブを元に戻してリコイルスタータハンドルを引いてください。

8. エンジン回転数が安定したらチョークノブ ① を運転にします。



要　　点

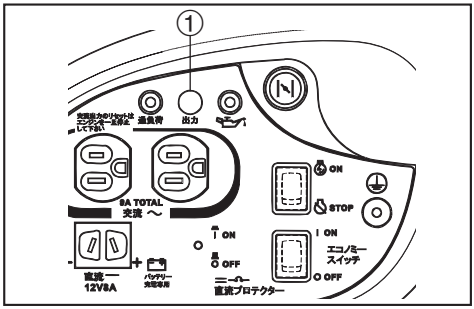
暖機運転が不十分な状態でチョークノブを戻すと、エンジンが停止することがあります。

9. しばらく暖機運転します。

要　　点

気温が 3℃以下の場合、エコノミースイッチが ON（作動中）でも自動的に約 5 分間 5000r/min で暖機運転し、気温が 3℃以上の場合は約 3 分間 4000r/min で暖機運転します。その後自動的に低速運転に切り替わります。

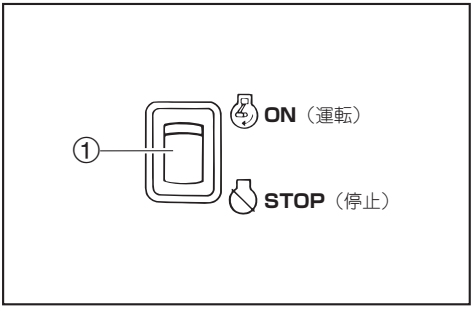
10. 出力表示ランプ（緑色）① が点灯していることを確認します。



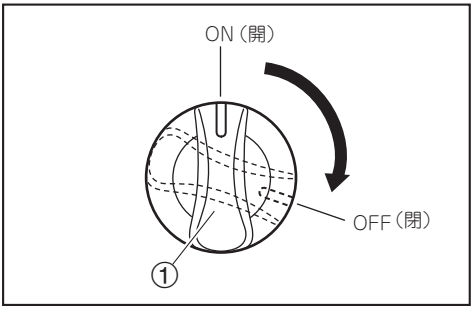
正しい運転操作（つづき）

● **エンジンの停止**

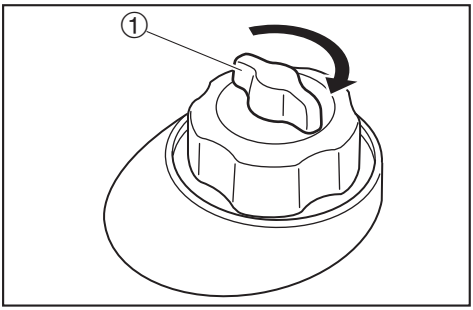
1. 電気器具のスイッチを OFF（切）にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。
3. エンジンスイッチ ① を STOP（停止）にします。



4. 燃料コック ① を OFF（閉）にします。

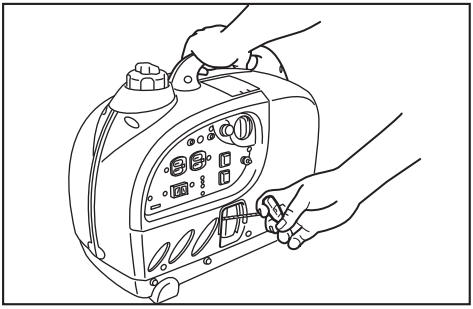


5. 燃料給油キャップつまみ ① を右方向に止まるまで回します。

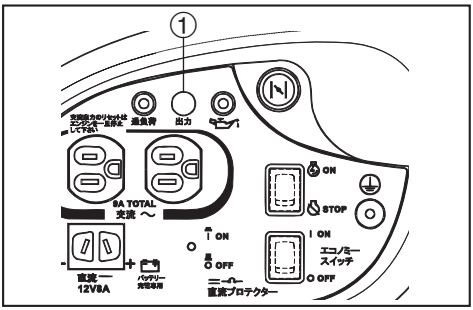


● 交流電源の取りだし方

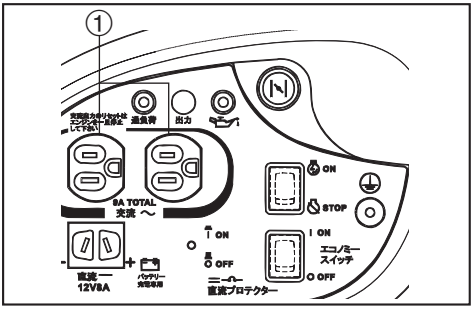
1. エンジンを始動します。



2. 出力表示ランプ（緑色）① が点灯していることを確認します。



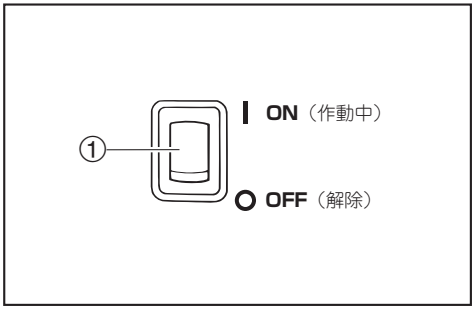
3. 電気器具のプラグを交流コンセント ① に差し込みます。
   2 口合計消費電流　9A



要　点

電気器具のスイッチが OFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

4. エコノミースイッチ ① を ON（作動中）にします。



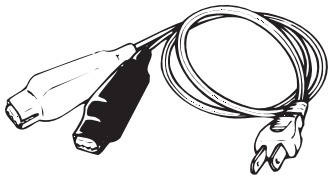
正しい運転操作（つづき）

- 直流電源の取りだし方（12V バッテリ充電専用）

⚠注　意

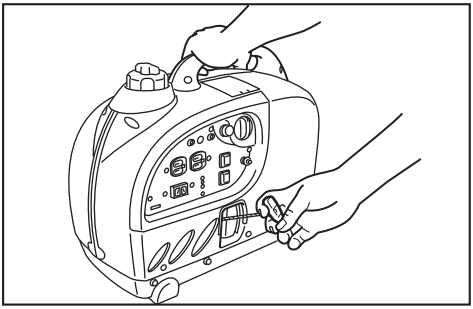
- 直流（DC）と交流（AC）を同時に取り出す場合の交流（AC）の器具の電力は次の範囲を守ってください。
  60Hz—800W まで
  50Hz—800W まで
- 充電時間はバッテリ液の比重によって異なります。

チャージコードアッセンブリは別販売品です。

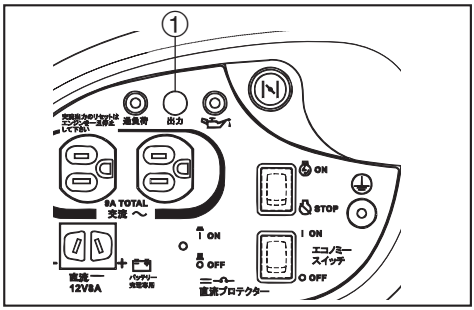


チャージコードアッセンブリ
部品No. YH00000529

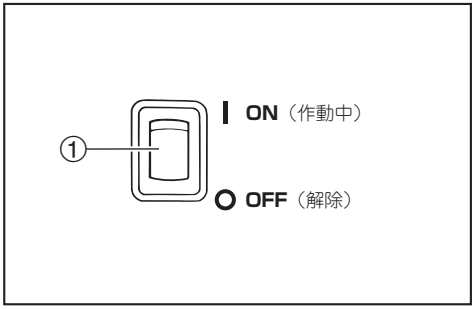
1. エンジンを始動します。



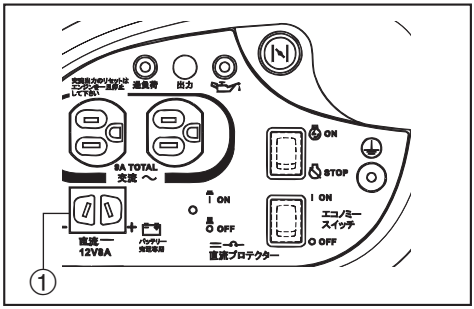
2. 出力表示ランプ（緑色）① が点灯していることを確認します。



3. エコノミースイッチ ① を OFF（解除）にします。



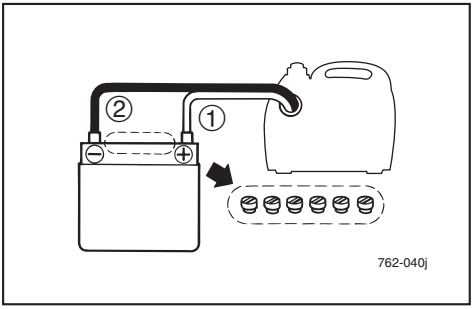
4. チャージコードアッセンブリのプラグを直流コンセント ① に差し込みます。



⚠注　意

チャージコードアッセンブリの取り外しはエンジン停止後、取り付けの逆順で行ってください。

5. チャージコードアッセンブリの赤色端子①をバッテリの⊕端子に接続します。
6. チャージコードアッセンブリの黒色端子②をバッテリの⊖端子に接続します。



⚠注　意

- 満充電になるための充電時間はバッテリの種類、放電状態（比重）によって異なります。
- 詳細は充電するバッテリの説明書を熟読してください。

⚠警　告

バッテリは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、けがをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しの良いところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリ液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリ液が皮膚、衣服などに付いたときは、すぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

正しい運転操作（つづき）

● **交流電源の使用可能範囲**

交流電源は電気器具ごとに、おおむね下表の取り出し可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上、ご使用ください。

家庭機器		
必要発電量	電気機器	消費電力 (W)
消費電力の 1 倍	炊飯器	300 ～ 1000
	コーヒーメーカー	450
	ホットプレート	800 ～ 1400
	カラーテレビ	100
	ヘアドライヤー	1200
消費電力の 1.2 倍～ 2 倍	エアコン	1200
	電子レンジ	800 ～ 1200
	芝刈機	400
消費電力の 3 倍～ 5 倍	冷蔵庫	100 ～ 260
	掃除機	1100
	洗濯機	500
	クーラー	600
	深井戸ポンプ	600
	水銀灯	40 ～ 400

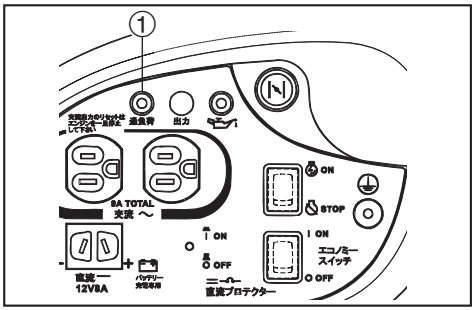
電気工具・建築機械他		
必要発電量	電気機器	消費電力 (W)
消費電力の 1 倍	ハンダゴテ	300 ～ 1000
	しらす用照明	600
消費電力の 1.2 倍～ 2 倍	ドリル	350 ～ 600
	ディスクグラインダー	500 ～ 1200
	電気ハンマー	1050 ～ 1430
	チェンソー	1200
	インパクトレンチ	1200
	バイブレーター	800 ～ 1200
	シイタケ用ドリル	400
消費電力の 3 倍～ 5 倍	エアーコンプレッサー	100 ～ 260
	ウィンチ	1100
	水中ポンプ	500

⚠注　意

- **電気器具の合計負荷が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は､発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。**
- **医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。**
- **電動工具などモータを使用した器具では起動電流が大きい場合があり、定格の 3 ～ 5 倍の電力を必要とする事があります。従いまして器具の種類によっては、使用できない事がありますので、このような場合には、お買い上げの販売店、または当社営業所にご相談ください。**

要　点

- 取り出し可能範囲を超えた場合、または電気器具に異常があった場合は、電気の供給が遮断されます。
- 過負荷警告ランプ（赤色）① は、接続された電気器具に定格出力を超える電気が供給されたとき、コントロールユニットがオーバーヒートしたとき、交流コンセントから定格電圧を超える電圧が出力されたときに点灯します。
- コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告ランプが数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。



- **直流電源（12V バッテリ充電専用）の使用可能範囲**

  直流電源は 40AH、1/2（ハーフ）放電状態のバッテリを充電できるように作られていますので、これよりも容量の小さいバッテリを充電してください。

  12V バッテリ

  バッテリの補充電は、バッテリの放電状態によって充電時間が異なります。バッテリの比重が 1.26 ～ 1.28 になると充電完了となりますので、1 時間おきに比重をチェックしてください。

  40AH のバッテリの場合、1/2（ハーフ）放電状態から約 5 時間でほぼ良好な状態となります。

  なお、バッテリの充電は、必ずバッテリの液量を確認してから行ってください。

⚠注　意

- **バッテリ充電中にバッテリから電気を取ったり、バッテリ充電中に車のスタータモーターを回すなどしないでください。大電流が流れ、発電機ジェネレータ部分のコイル焼けの原因となります。**
- **密閉式バッテリには専用の充電器が必要です。密閉式バッテリは接続しないでください。**

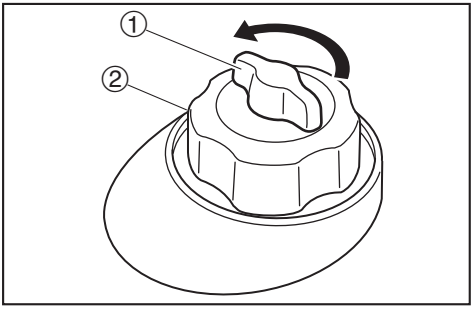
要　点

エコノミースイッチは OFF（解除）にしてください。

● **燃料（自動車用レギュラーガソリン）の点検**

燃料給油キャップつまみ ① を左方向に 1 回転回します。

燃料タンクキャップ ② をゆるめます。

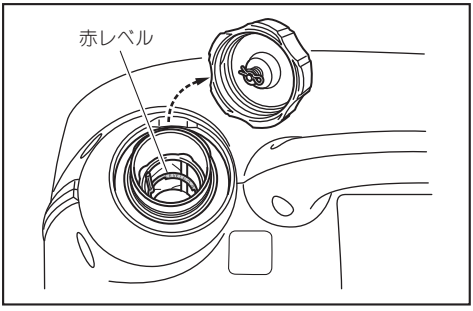


要　点

燃料給油キャップつまみは燃料タンク内と外気との通路を開閉する装置です。
発電機を運転する前にゆるめ（通路を開く）、運転を終了した後に締め付け（通路を閉じる）ます。

燃料タンクキャップを外し、燃料（自動車用レギュラーガソリン）の残量を点検します。

使用燃料：
　無鉛ガソリン
　（自動車用レギュラーガソリン）
燃料タンク容量：
　2.5L（赤レベルまで）



⚠警　告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力があるので、次の事項を必ず守ってください。

- **給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。**
- **給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。**
- **燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。**
- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**

⚠注　意

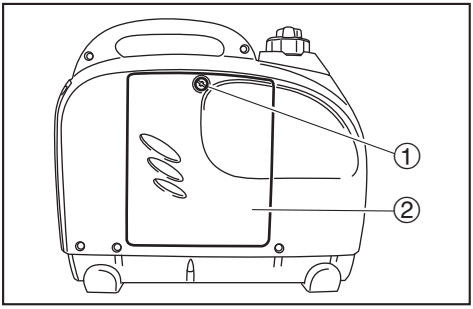
- **燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。**
- **燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。**

要　点

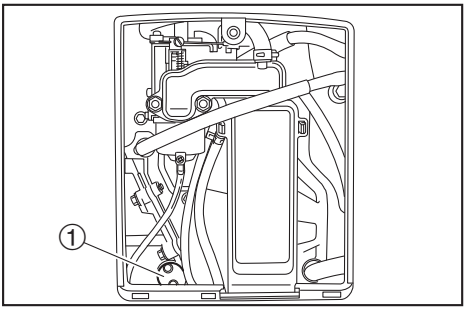
- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

● **エンジンオイルの点検**

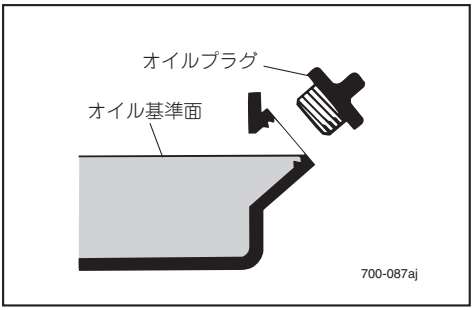
1. ボルト ① をゆるめて、カバー ② を取り外します。



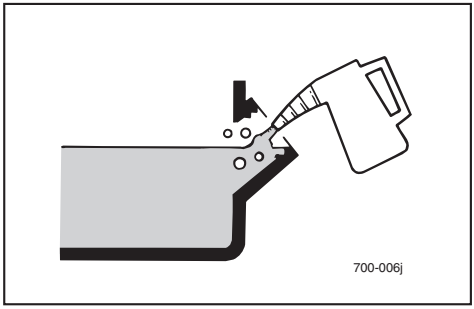
2. オイルプラグ ① を外します。



3. エンジンオイルがオイル基準面（注入口の口元）まであるか点検します。



4. エンジンオイルが基準面（注入口の口元）より少ない場合は、4 ストロークエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。



⚠注　意

エンジンオイルを基準面以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要　点

- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平にした状態で行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
- エンジンオイルを規定量入れないとエンジンは始動しません。

5. オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。
6. カバーを取り付けます。

● **その他の点検**

P28 を参照してください。

点検

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

⚠警　告

- **エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラ周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。やけどにご注意ください。**
- **排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。**
- **異状が認められた場合は、ご使用のかたご自身、もしくはお買上げの販売店、または当社営業所で必ず整備を行ってください。**

⚠注　意

事故や故障の原因になりますので、始業点検・定期点検を必ず実施してください。

- **始業点検**

お客様が発電機をご使用するたびに点検を行ってください。
点検箇所に異状がある場合は、お買上げの販売店、または当社営業所で点検・整備をお受けください。

- **定期点検（有料）**

お客様のお申しつけにより、お買上げの販売店、または当社営業所が実施します。お客様の責任で必ず点検を受けてください。

対象部品	点検項目	始業点検	6ヶ月毎または100時間運転毎	12ヶ月毎または300時間運転毎
エンジンオイル	オイル量の点検	○		
	交換		○（*1）	
燃料	量、漏れ	○		
フューエルパイプ	亀裂、損傷の確認	○		
スパークプラグ	点検、清掃		○	
エアクリーナ	点検、清掃		○（*2）	
マフラーワイヤネット	清掃、損傷の確認		○	
燃料タンクストレーナ	清掃			○
ブリーザパイプ	亀裂、損傷の確認			○
シリンダーヘッド部	カーボンの除去			★
バルブクリアランス	点検			★
リコイルスタータ	損傷の確認			★
エンジン回転	調整			★
本体各部	各部のゆるみ確認			★
前日の作業で異状が認められた箇所		○		

*1……初回は1ヶ月目または20時間運転時に実施してください。

*2……ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

★……この項目は整備に関する専門知識、工具、技術を必要としますので、お買上げの販売店、または当社営業所へお申し付けください。

定期運転・定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使用することが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行って緊急時に備えてください。

- **定期運転**

  1 ヶ月に 1 度定期的に発電機を運転（約 10 分）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

- **定期交換**

  燃料（自動車用レギュラーガソリン）を満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため、3 ヶ月に 1 回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

⚠警　告

- **本書での指示なき作業などを行うときにも、必ずエンジンを止めてください。**
- **お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、お買上げの販売店、または当社営業所へ作業を依頼してください。**

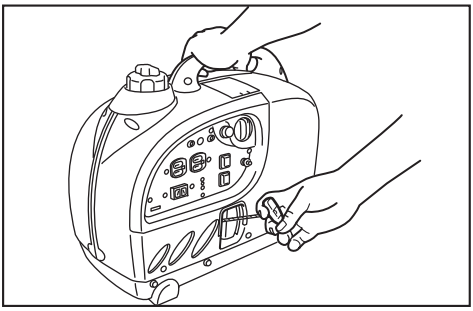
交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

● エンジンオイルの交換

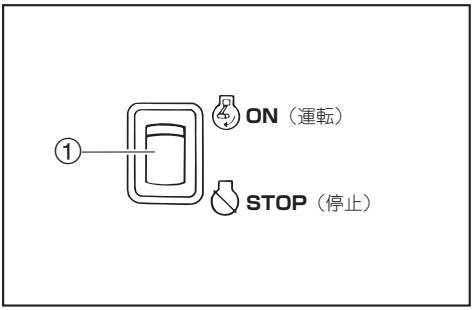
⚠警　告

油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、お買上げの販売店、または当社営業所へご相談ください。

1. エンジンを始動し、2 ～ 3 分暖機運転します。



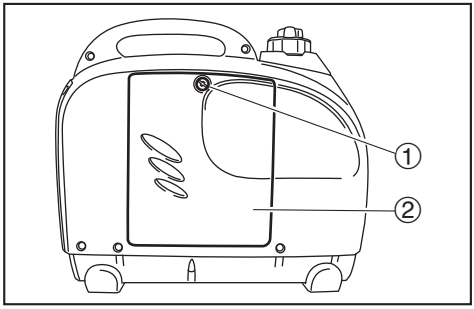
2. エンジンスイッチ ① を STOP（停止）にしてエンジンを停止します。



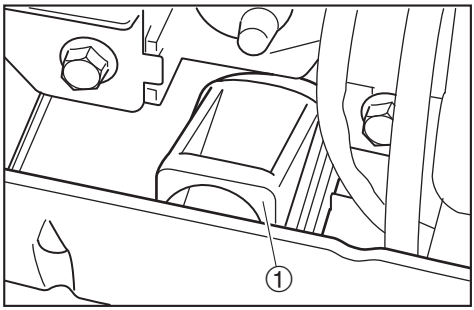
⚠警　告

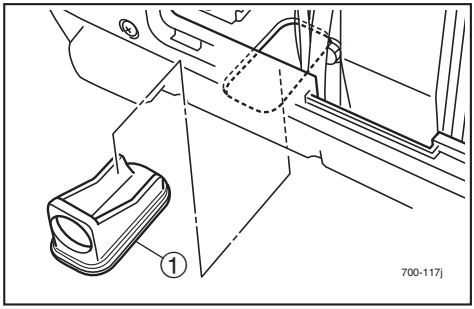
エンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。

3. ボルト ① をゆるめて、カバー ② を取り外します。



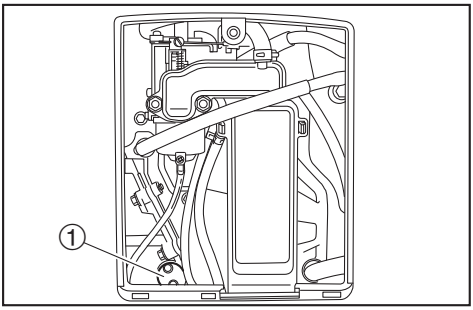
4. オイルフィラ ① を下方に押して取り外します。





点検・調整（つづき）

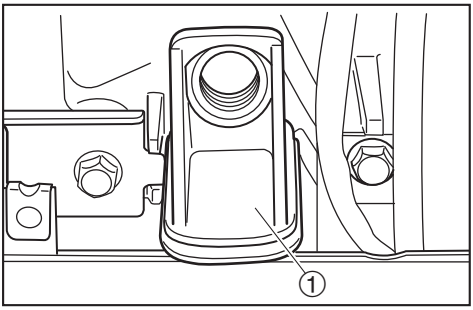
5. オイルプラグ ① を外します。



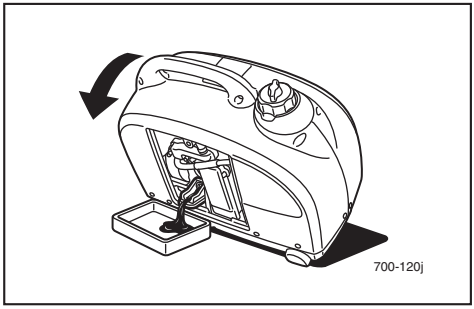
要　点

排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意してください。

6. オイルフィラ ① をエンジンオイル注入口に取り付けます。



7. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。

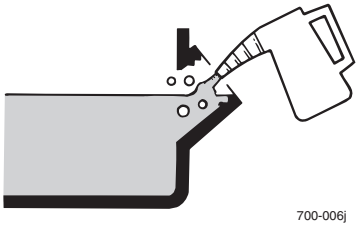


要　点

初回は 20 時間目、その後は 100 時間毎に交換してください。

8. 新しい４ストロークエンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで給油します。

推奨オイル：
自動車用４ストロークエンジンオイル
品質：API 分類 SE 級以上のものを使用。
粘度：SAE 10W-30 または SAE 10W-40 を推奨
シングルグレードオイルを使用する場合は、外気温に合わせて適当な粘度のオイルを選んでください。（詳細は給油の章を参照）
エンジンオイル規定量：
0.32L



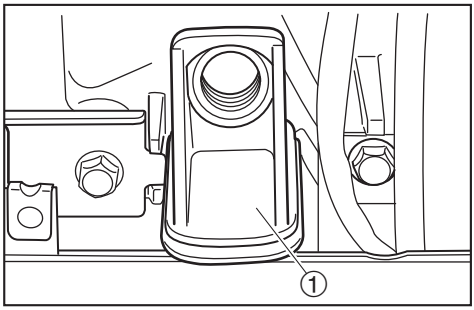
⚠注　意

エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

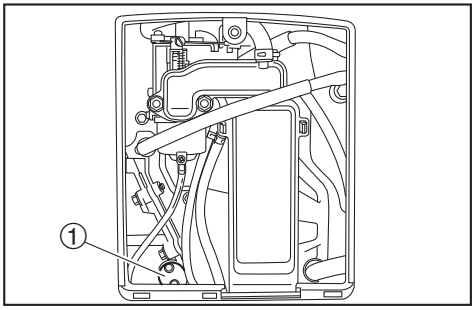
要　点

- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平にした状態で行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

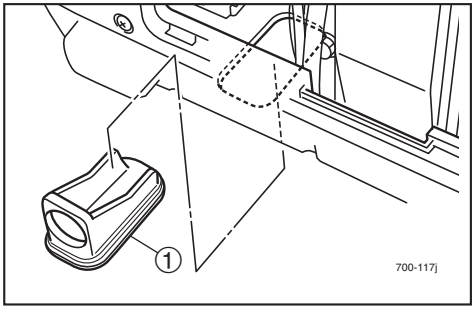
9. オイルフィラ ① を外します。



10. オイルプラグ ① を締め付けます。

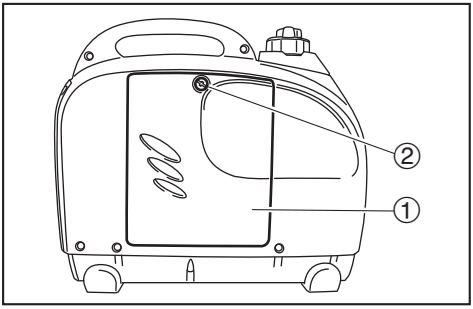


11. 外したオイルフィラ ① のオイルをふき取り、本体底板にはめ込みます。



点検・調整（つづき）

12. カバー ① を取り付けて、ボルト ② を締め付けます。



● **スパークプラグの点検と清掃**

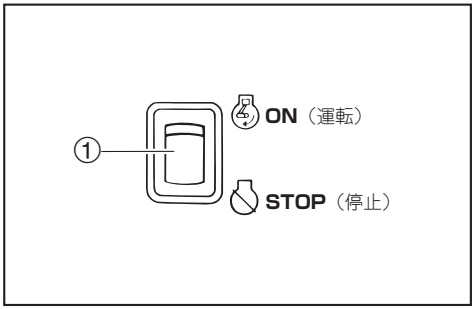
スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。

スパークプラグは徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行う必要があります。

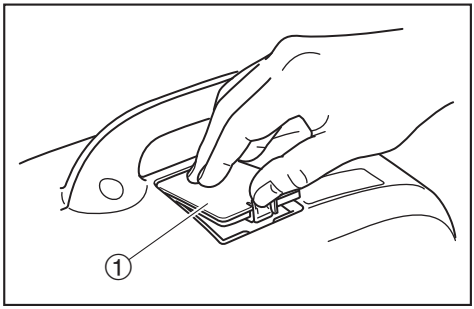
⚠警　告

エンジン停止直後は、スパークプラグやエンジン本体が熱くなっていますので、やけどに注意してください。

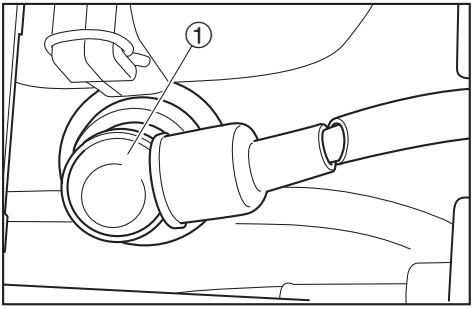
1. エンジンスイッチ ① を STOP（停止）にしてエンジンを停止します。

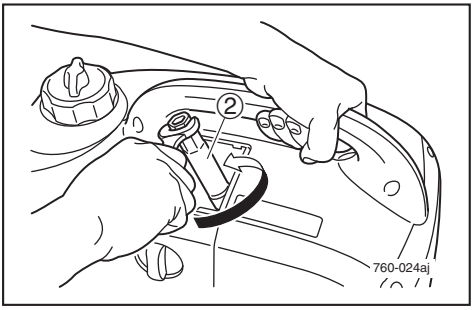


2. スパークプラグカバー ① を取り外します。



3. スパークプラグキャップ ① を取り外し、同梱の工具 ② を使用してスパークプラグを外します。





⚠警　告

スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。
碍子が損傷すると、電気がもれて火災などを誘発するおそれがあります。

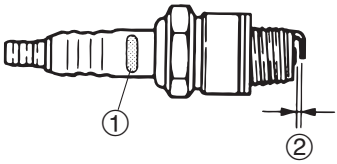
要　点

スパークプラグを取り外すとき、スパークプラグを発電機の内部に落とさないよう注意してください。

4. スパークプラグの焼け具合を点検します。
   通常はキツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはエアクリーナを点検します。

5. 電極付近の汚れ（カーボン）をワイヤブラシで落とします。
6. スパークプラグ認識番号 ① とスパークプラグギャップ ② を点検します。

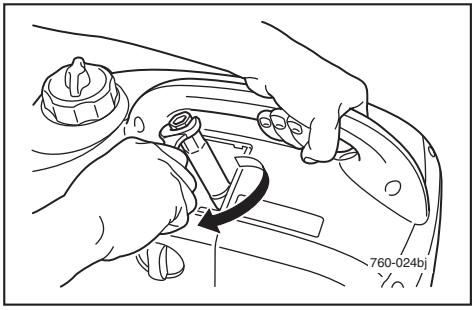
スパークプラグ認識番号：
　NGK　CR4HSB
スパークプラグギャップ：
　0.6 ～ 0.7 ㎜



①スパークプラグ認識番号
②スパークプラグギャップ

7. スパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

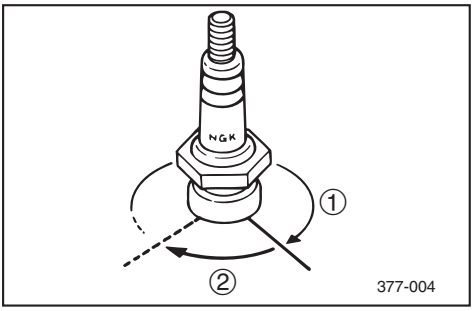
スパークプラグ
　規定トルク：
　　18N・m（1.8kgf・m）



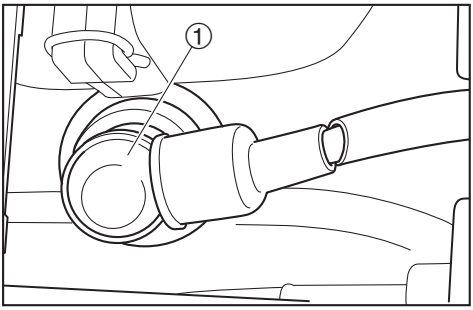
点検・調整（つづき）

要　点

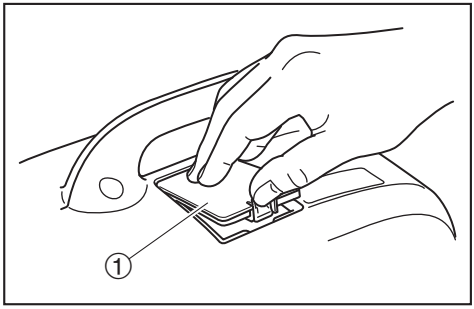
スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できないときは、指でいっぱいに締め込んだ後①、プラグレンチを使って１／４～１／２回転②更に締め込んでください。
できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規のトルクで締めてください。



8. スパークプラグキャップ①を取り付けます。



9. スパークプラグカバー①を取り付けます。

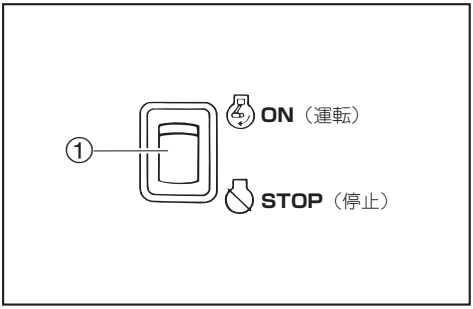


● **エアクリーナエレメントの清掃**

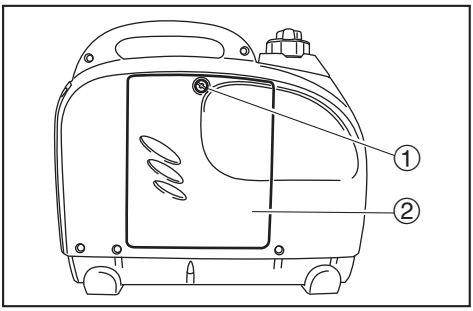
要　点

ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

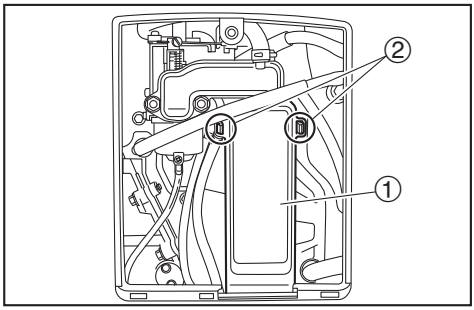
1. エンジンスイッチ ① を STOP（停止）にしてエンジンを停止します。



2. ボルト ① をゆるめて、カバー ② を取り外します。

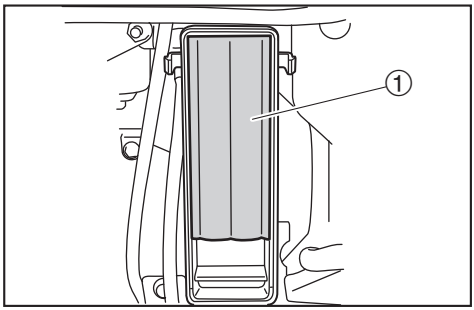


3. エアクリーナカバー ① を固定しているクリップ ② を外します。



4. エアクリーナカバーを外します。

5. エレメント ① を外します。



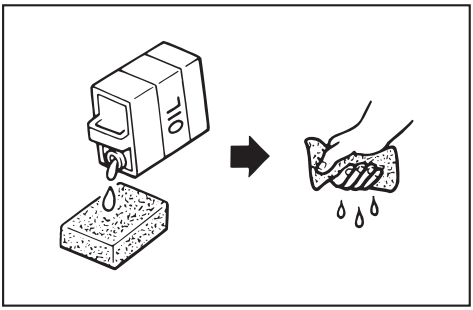
6. エレメントをきれいな白灯油で洗浄します。

⚠警　告

- **タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。**
- **油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、お買上げの販売店、または当社営業所へご相談ください。**

7. エレメントをエンジンオイルなどにひたし、その後余分なオイルを取り除きます。

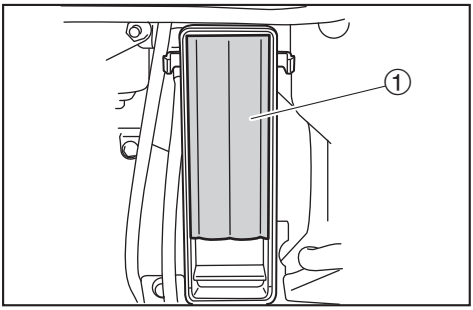
点検・調整（つづき）



⚠注　意

エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

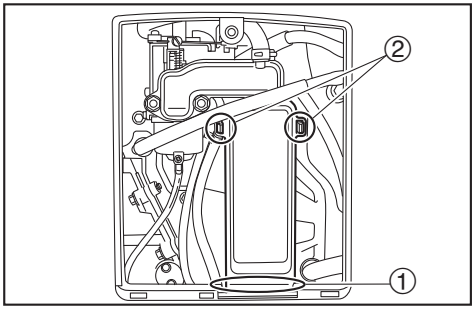
8. エレメント ① をエアクリーナ本体にはめ込みます。



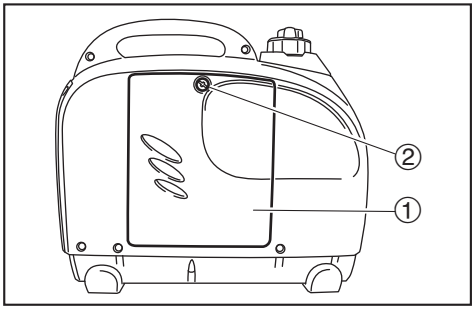
⚠注　意

エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。

9. エアクリーナカバー突起部 ① を溝にはめ込み、クリップ ② を取り付けます。



10. カバー ① を取り付けて、ボルト ② を締め付けます。

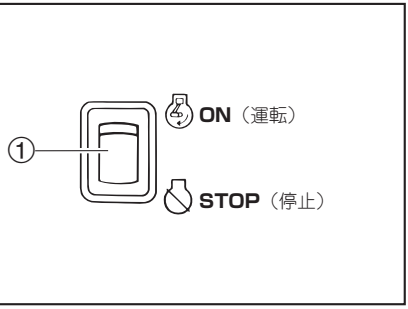


● **燃料タンクストレーナの清掃**

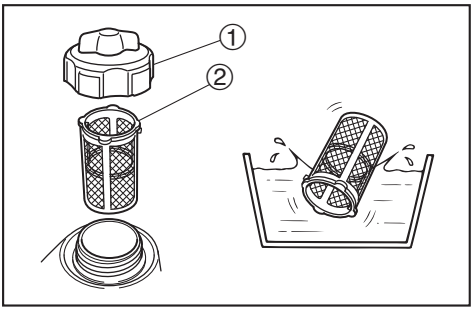
要　点

ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっていることがあります。

1. エンジンスイッチ ① を STOP（停止）にしてエンジンを停止します。



2. 燃料タンクキャップ ① およびストレーナ ② を取り外します。



3. ガソリンを使ってストレーナを洗浄します。

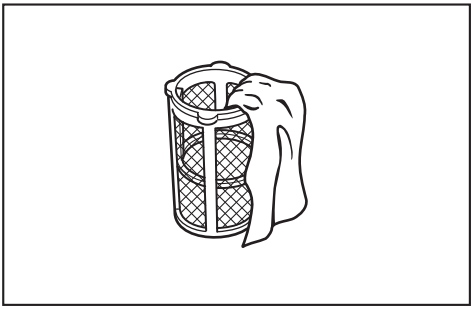
⚠警　告

タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。

要　点

ストレーナが破損している場合は新品と交換してください。

4. ストレーナをふいて燃料タンクに挿入します。



5. 燃料タンクキャップを取り付けます。

⚠警　告

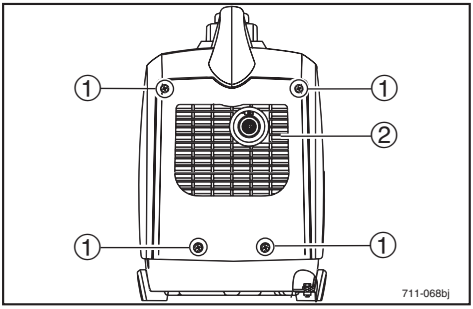
燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。

● マフラワイヤネットの清掃

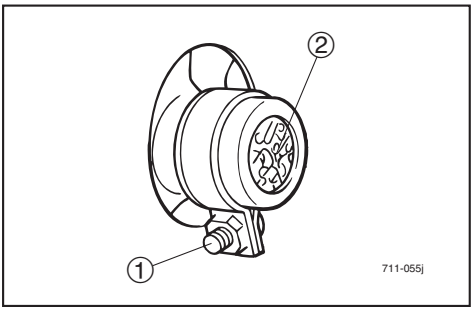
⚠警　告

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラ、エキゾーストパイプなどが熱くなっていますので、やけどに注意してください。点検や整備は、十分にエンジン本体やマフラ、エキゾーストパイプなどが冷えてから行ってください。

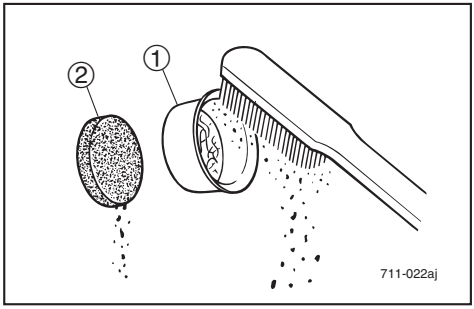
1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。
2. ボルト①をゆるめて、カバー②を取り外します。



3. ボルト①をゆるめてマフラキャップとマフラワイヤネット②を外します。



4. ワイヤブラシを利用してマフラキャップ①とマフラワイヤネット②の汚れを取り除きます。



5. マフラワイヤネットとマフラキャップを取り付けてボルトを締め付けます。
6. カバーを取り付けてボルトを締め付けます。

故障診断

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取り扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。故障が生じたときは、お買上げの販売店、または当社営業所にご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選び、その想定される原因を列記しました。故障診断が不安なときは、できるだけそのままの状態でお買上げの販売店、または当社営業所に連絡し、専門技術者にご相談ください。

● エンジンが始動しない

1. 燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）

燃料タンクが空になっている ……	燃料（自動車用レギュラーガソリン）を補給する。
燃料給油キャップつまみが閉じている …	燃料給油キャップつまみを左方向に 1 回転回す。
燃料パイプが目詰まりしている ……	燃料パイプを清掃する。 もしくは、お買上げの販売店、または当社営業所に相談する。
燃料コックに異物が混入している ……	燃料コックを清掃する。 もしくは、お買上げの販売店、または当社営業所に相談する。
キャブレタが目詰まりしている ……	キャブレタを清掃する。 もしくは、お買上げの販売店、または当社営業所店に相談する。

2. 電気系統（火花不足）

スパークプラグが汚れている ……	スパークプラグを乾燥させて清掃する。
スパークプラグにカーボンが付着している ……	カーボンを除去する。
点火系統が不良 ……	お買上げの販売店、または当社営業所に相談する。

3. 圧縮系統（圧縮不足、漏れ） …… お買上げの販売店、または当社営業所に相談する。

4. 潤滑系統（オイル不足）

リコイルスタータハンドルを引くとオイル警告ランプが点灯する ……	4 ストロークエンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで補給する。

● 電気が出ない

交流過電流保護装置が作動している ……	エンジンスイッチを STOP（停止）の位置にして一旦エンジンを停止し、その後再始動する。

運搬

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

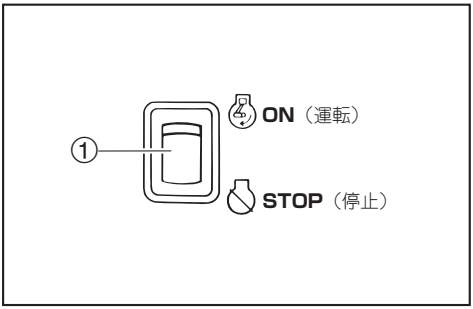
⚠警　告

- **振動、衝撃などで燃料タンクの燃料（自動車用レギュラーガソリン）がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。**
- **燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。**
- **火災のおそれがありますので、予備の燃料は消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。**
- **火災のおそれあり、車両に積載したまま使用しないでください。**

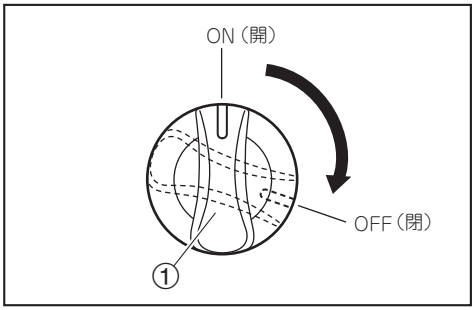
⚠注　意

発電機の上に重いものを置かないでください。

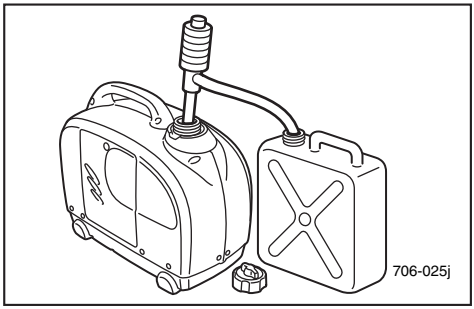
1. エンジンスイッチ ① を STOP（停止）にします。



2. 燃料コック ① を OFF（閉）にします。



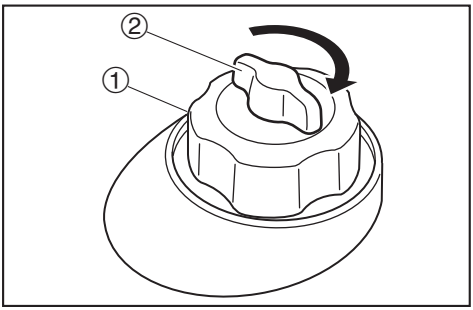
3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料（自動車用レギュラーガソリン）を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



⚠警　告

こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。

4. ストレーナおよび燃料タンクキャップ①を確実に締め付け、燃料給油キャップつまみ②を右方向に止まるまで回します。



⚠警　告

燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。

5. 車両に積載し、発電機をロープなどで確実に固定します。

要　　点

発電機が移動、転倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。

保管・格納

● 保管

使用後、または定期運転後次回の使用が３ヶ月以降になる場合は、1 ～ 14 の作業を行って保管し、次に使用するときに備えてください。

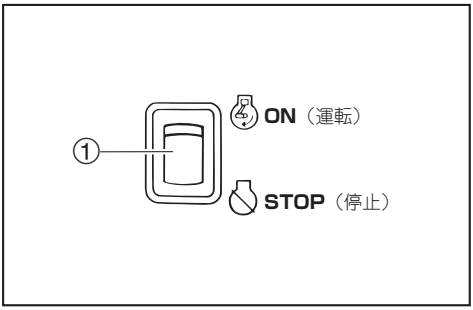
⚠注　意

燃料（自動車用レギュラーガソリン）が自然劣化してエンジンの始動が困難になる場合がありますので燃料は抜いてください。

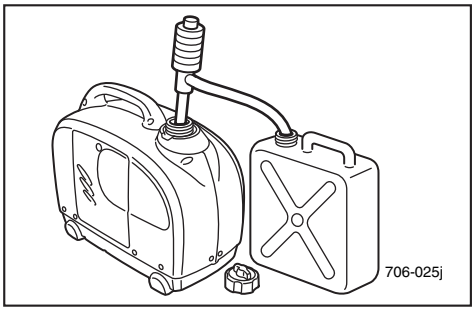
要　　点

排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

1. エンジンスイッチ ① を STOP（停止）にしてエンジンを停止します。



2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料（自動車用レギュラーガソリン）を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



⚠警　告

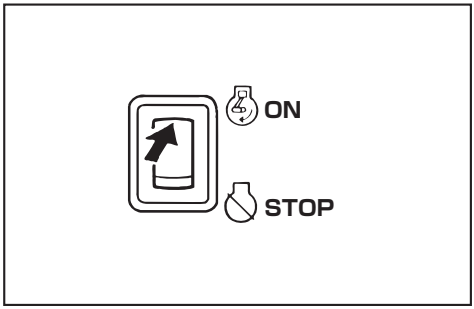
こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。

3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。

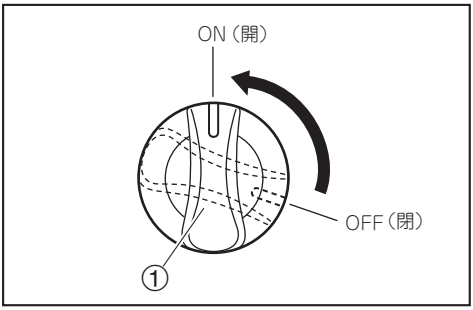
⚠警　告

燃料タンクキャップは確実に締めてください。

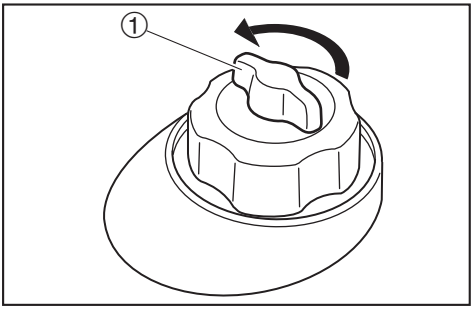
4. エンジンスイッチを ON（運転）にします。



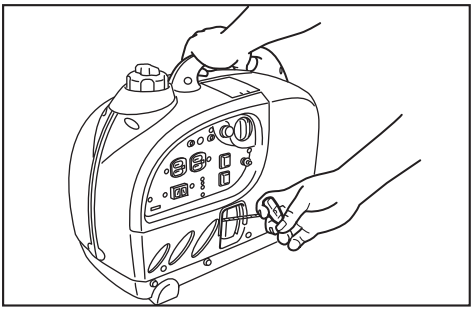
5. 燃料コック ① を ON（開）にします。



6. 燃料給油キャップつまみ ① を左方向に 1 回転回します。



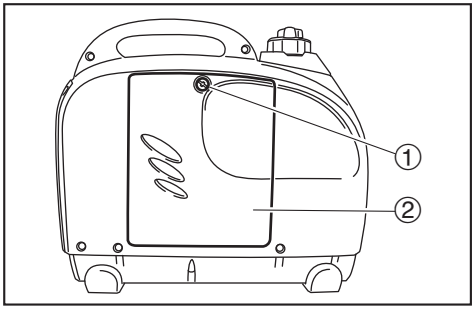
7. エンジンを始動します。
約 20 分前後でエンジンは「ガス欠状態」で停止します。



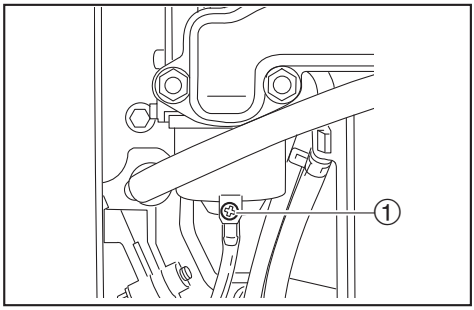
要　点

- 電気器具は接続しないでください。（無負荷運転）
- 燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。

8. ボルト ① をゆるめて、カバー ② を取り外します。



9. キャブレタのドレンスクリュ ① を⊕ドライバでゆるめて燃料を抜きます。

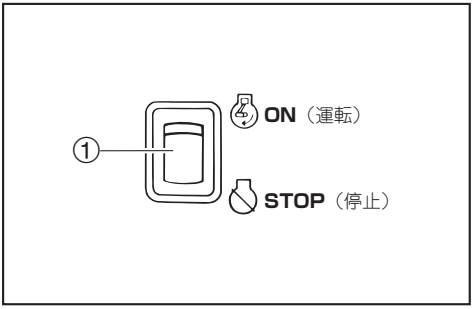


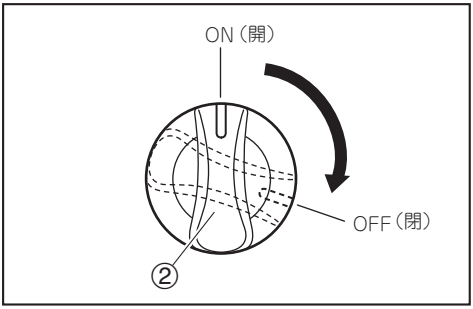
⚠警　告

こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。

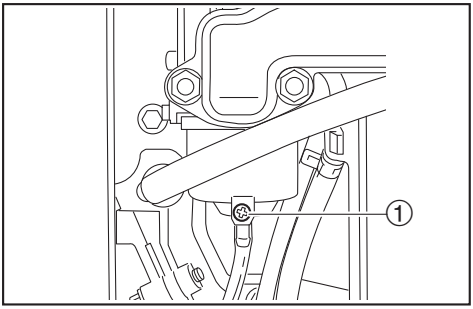
保管・格納（つづき）

10.エンジンスイッチ ① を STOP（停止）、燃料コック ② を OFF（閉）にします。

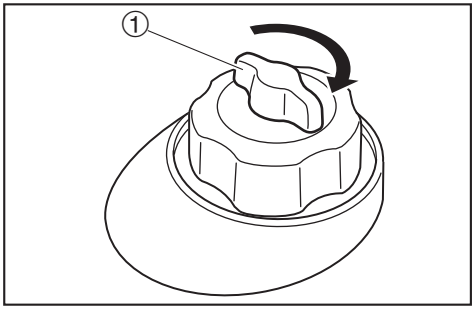




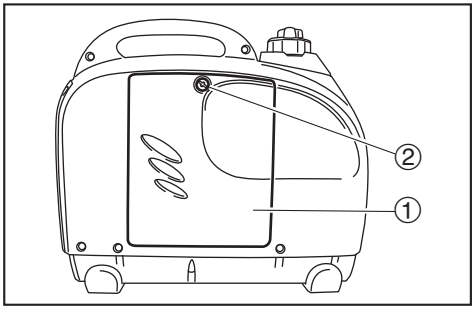
11.ドレンスクリュ ① を締め付けます。



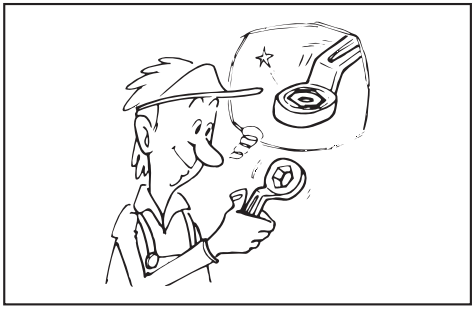
12.燃料給油キャップつまみ ① を右方向に止まるまで回します。



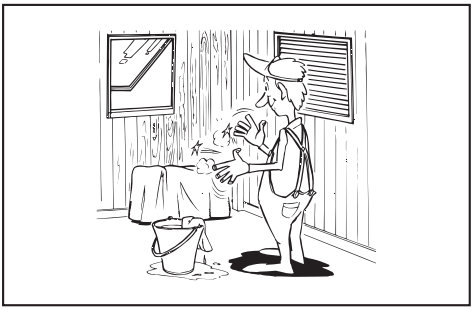
13.カバー ① を取り付けて、ボルト ② を締め付けます。



14.ゆるみがあれば各ボルト・ナット・スクリュを増し締めします。



15. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。



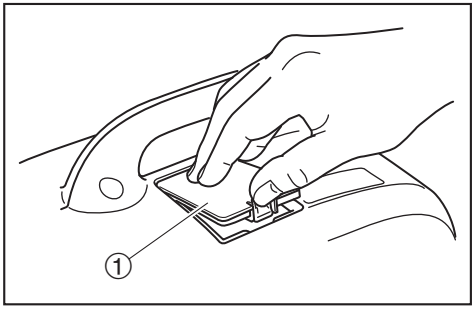
⚠注　意

火災のおそれがありますので、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラ部が十分に冷えてから行ってください。

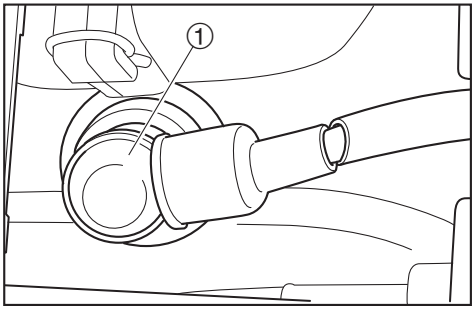
● 格納

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行って格納し、次に使用するときに備えてください。

1. 「● 保管」の 1 ～ 14 の作業を行います。
2. スパークプラグカバー ① を取り外します。

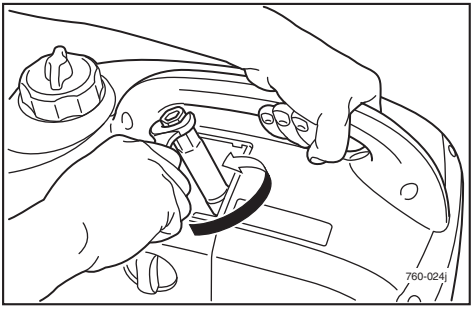


3. スパークプラグキャップ ① を外します。

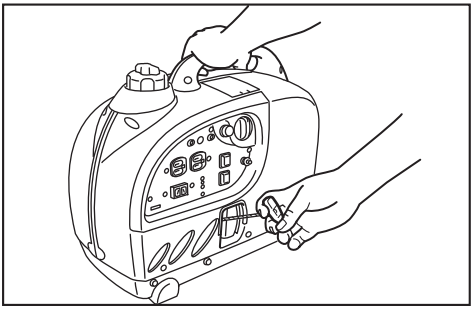


保管・格納（つづき）

4. スパークプラグを外し、プラグ孔よりエンジンオイルを 3 ～ 5mL 給油します。

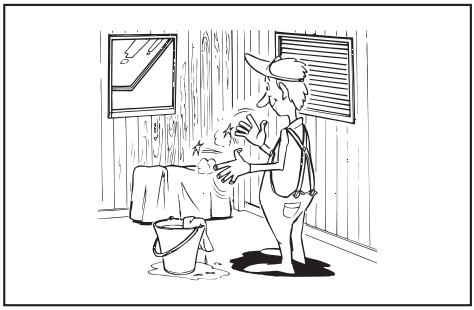


5. スタータロープを 2 ～ 3 回引いた後、スパークプラグを取り付けます。
6. スタータロープを引き、重くなった状態（圧縮状態）にします。



7. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。

8. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に格納します。



仕様諸元

名称			EG0900IS
形式			多極回転界磁形
電圧調整方式			インバータ式
励磁方式			自己励磁式
力率			1.0
電圧変動率（整定）			3%以下
周波数変動率（整定）			0.1%以下
発電機	交流	定格周波数	50Hz/60Hz（切替式）
		定格出力	0.9kVA（900VA）
		定格電圧	100V
		定格電流	9.0A
	直流	定格電圧	12V
		定格電流	8A
装備	駆動方式		エンジン直結
	交流コンセント		15A × 2 個
	交流過電流保護装置		電子式
	直流コンセント		10A × 1 個
	直流過電流保護装置		直流プロテクタ
エンジン	エンジン種類		空冷 4 ストロークガソリンエンジン
	調速機形式		電子式
	冷却方式		強制空冷式
	点火方式		TCI
	スパークプラグ		NGK・CR4HSB
	プラグギャップ		0.6 ～ 0.7㎜
	エアクリーナ方式		半湿式（ウレタンフォーム）
	総排気量		50mL（50㎤）
	使用燃料		無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）
	潤滑方式		強制飛沫式
	エンジンオイル		4 ストロークエンジンオイル （API 分類 SE 級以上）
	エンジンオイル規定量		320mL（320㎤）
	始動方式		リコイル式
燃料タンク容量（赤レベル）			2.5L
連続運転時間（赤レベル）			11.9 ～ 4.1 時間（1/4 負荷～定格負荷）*1
乾燥重量			12.7㎏
全長×全幅×全高			450 × 240 × 380㎜
騒音レベル（7m）			48.5 ～ 60.5dB（A）（1/4 負荷～定格負荷）*1
バッテリ			無

● この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。
*1： エコノミースイッチ ON 時

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711（代表）

EG0900IS-MJ-1612
(7CG-28199-T0)